

# 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に係る 支援者研修会

## 地域一体での事業実施を目指して

令和3年10月19日

秋田県仙北市市民福祉部市民生活課国民健康保険係

主任保健師 若松 香奈子

# 秋田県 仙北市



**平成17年 2町1村合併**

(田沢湖町、角館町、西木村)

**市面積 1, 093. 56km<sup>2</sup>(秋田県の9. 4%)**

**仙北市第2次総合計画**

**まちづくり基本理念「健やかに美しく輝くまち」**

**基本目標・施策大綱(まちづくりの目標)**

**「優しさにあふれ健やかに暮らせるまち」  
(健康福祉医療)**

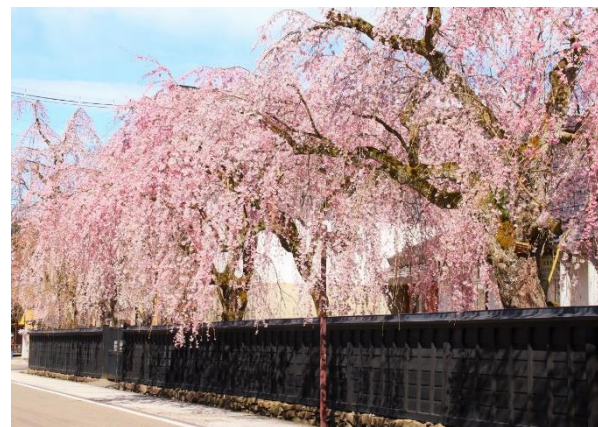
# 四季折々の観光が楽しめるまち 秋田県 仙北市



日本一深い湖 田沢湖



桧木内川堤ソメイヨシノ



武家屋敷 しだれ桜



秋田駒ヶ岳



乳頭、田沢湖高原、水沢温泉郷



抱返り溪谷

# 仙北市の状況

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
人口(人)	26,770	26,205	25,642	25,084
高齢化率(%)	40.6	41.5	42.8	43.5

出典 仙北市市民基本台帳

## 後期高齢者 入院医療費

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
1位	肺炎	肺炎	骨折	骨折
2位	脳梗塞	骨折	肺炎	脳梗塞
3位	骨折	脳梗塞	脳梗塞	関節疾患

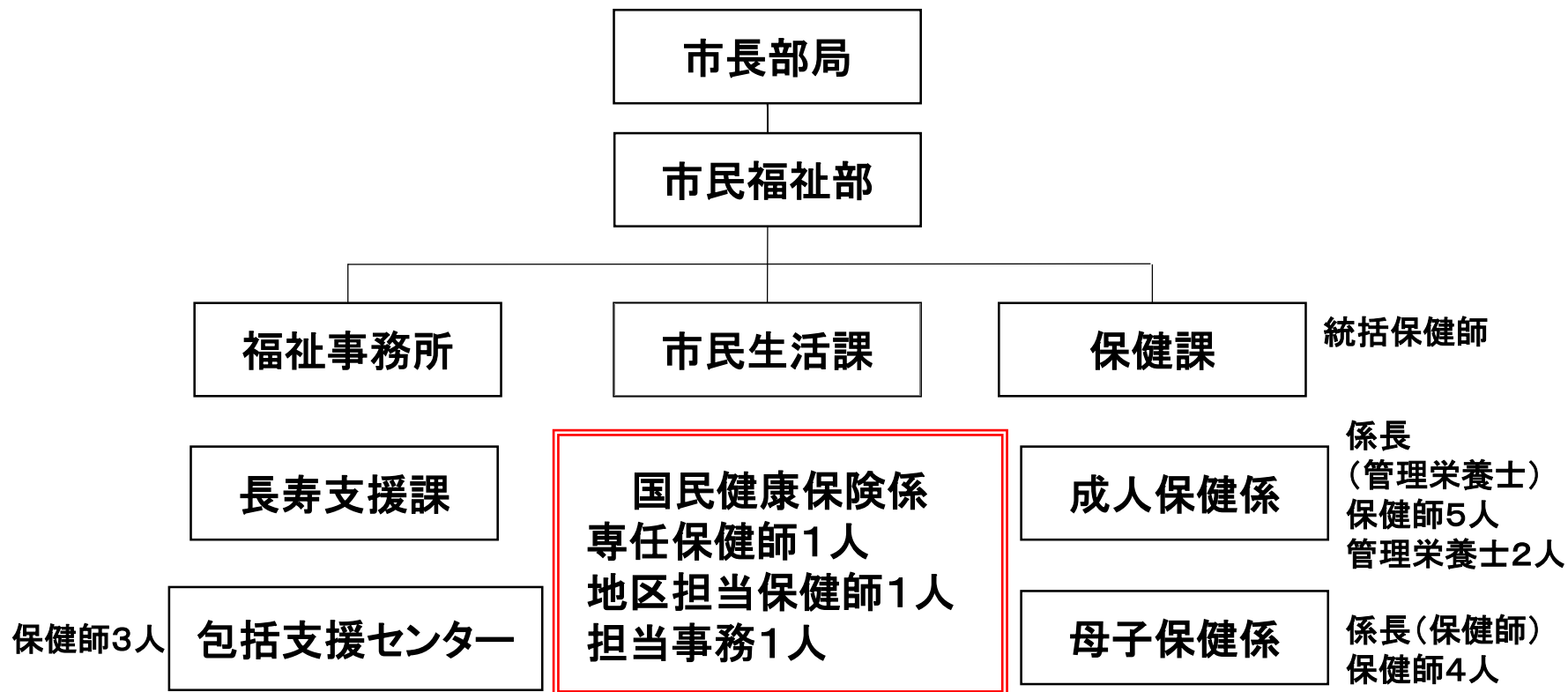
出典 KDBシステム医療費分析 最小分類

## 後期高齢者1件当たり入院医療費 脳血管疾患

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
市	531,656	543,542	568,340	566,382
西木地区	562,851	579,398	566,920	630,215
角館地区	546,539	541,972	554,806	562,704
田沢湖地区	504,349	524,128	582,505	544,310

出典 KDBシステム 健診・医療・介護データからみる地域の健康課題

# 仙北市 組織体系



# 事業開始までの過程 2019年度

2019年 4月 市民生活課国民健康保険係に保健師配置

2019年10月 市民生活課・保健課・包括支援センターと打合せ開始

その後、毎月1回打合せを実施

市民生活課保健師が担当となり、事前資料準備等会議準備を行う

○主な内容・一体的実施事業について

- ・KDBデータによる地域診断結果
- ・地区担当医療従事者の役割
- ・専任医療従事者の役割
- ・通いの場リスト
- ・通いの場での地区担当医療従事者の役割
- ・事業の流れのイメージ 行政側
- ・事業の流れのイメージ 高齢者側

# 事業開始までの過程 2020年度 ①

## ◎作業部会の立ち上げ

- 各課実践メンバーを集め作業部会を月1回開催

市民生活課 保健師1人、担当事務1人

保健課 成人保健係3人(保健師1人、管理栄養士2人)

包括支援センター 保健師2人

※作業部会メンバー以外の参加も可能

- 作業部会での経過を全体打合せで年3回報告、検討

市民生活課長、保健課長、包括支援センター所長

統括保健師、各課職員 計18人



## 事業開始までの過程 2020年度 ②

### ○話し合い 主な内容

- 令和3年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業に係る事業計画
- 優先地区の決定(西木地区)
- ハイリスク事業年間計画
- 令和3年度当初予算
- 住民主体の地区通いの場リスト、通いの場登録票の作成
- 各種記録用紙(ハイリスク事業報告、業務日誌)

住民主体の通いの場の窓口を市民生活課に一本化



## 事業開始までの過程 2020年度 ③

### ○秋田県広域連合が事業説明のために来庁

市民生活課、保健課、包括支援センター職員への事業説明  
事前に広域連合への質問事項をまとめる

### ○西明寺診療所市川医師へ事業説明

市の現状、西木地区の現状説明、一体的実施の説明

### ○社会福祉協議会へ事業説明

通いの場としてサロン、老人クラブ連合会へ説明機会を確保  
通いの場窓口を市民生活課にまとめる

# 事業開始までの担当の役割

## 事業の必要性が上司や各課職員に伝わりにくい

### ○担当の役割

- 事業を理解し、資料を提示し上司や各課への説明を行う
- 「誰のための事業なのか」 事業目的をスタッフと考える
- 事業では、どのように対象者をつなげていくのか「横の連携が大事」になる
- 横の連携のためには、各課の業務内容を把握できている経験豊富な保健師が事業を担当するのが理想

# 2021年度 4月より事業開始 実施体制

**市民生活課 国民健康保険係**  
専任保健師1人、地区担当保健師1人  
後期高齢者医療担当事務1人

〈一体的実施事業の主体〉

KDBで地区分析

ハイリスク訪問者の抽出、訪問

通いの場の実施、受付窓口

通いの場のスタッフの調整

社会福祉協議会、民生児童委員と連携

医療機関、介護分野との連携

高齢者の保健事業支援委員会の開催

広域連合との連絡

国保連 評価委員会への参加

作業部会開催

**保健課**

作業部会の参加  
通いの場へ同伴  
特定健診、後期高齢者健診の実施

**包括支援センター**

作業部会の参加  
通いの場へ同伴  
ハイリスク訪問者引き継ぎ

# KDBシステムの活用

## ○活用内容

- 地域課題の明確化
- 地域診断結果を医療機関、薬剤師、社会福祉協議会、民生児童委員、通いの場参加者へ説明
- 地区ごとのデータ分析が可能
- 優先して取り組まなければならない地区の把握が可能
- ハイリスク訪問前後のレセプト確認
- 包括支援センターへのレセプト情報提供

## ○今後改善を期待する内容

- 訪問後に個人記録を記入する箇所がほしい

# 国保連合会からの支援

## ○「保健事業支援・評価委員会」での支援

- PDCAに沿った事業評価を学ぶことができる
- 事業評価により国の求めているもの、連携の大切さが分かる
- 他市町村の計画や事業評価を知ることができる

## ○研修会開催（KDBシステム、ヘルスサポート研修会等）

- スキルアップをすることができる
- 市職員全体のスキルアップにつながる

# 広域連合からの支援

## 一体的実施事業についての支援

- 事業開始前よりスタッフへの事業説明のために来庁
- 事業の説明、市からの問い合わせへの対応
- 日頃から市町村への手厚い対応

広域連合から市へのバックアップがあることで、  
一体的実施事業が可能

# 一体的実施事業開始しての気づき ①

- ・ 健康実態不明者訪問は、新たな市民との出会い  
健康への無関心、地域との孤立、金銭的不安、住居の汚染  
医療機関受診勧奨→お金がないことでの受診拒否もある  
今後の生活への様々な不安→訪問中泣き出す人もいる  
自ら SOSをだせない市民、ださない市民  
今までの事業では対象者としてあがらない市民

- ・ 予防の大切さの再確認
- ・ 後期高齢者だけへのアプローチではなく、家族や親類へ助言が必要
- ・ 医療・介護・包括支援センター・民生児童委員等につなぐことが必要



# 一体的実施事業開始しての気づき ②

- ・ 通いの場は、地域を動かすことのできる人探しの場  
通いの場で地域をまとめている人は、地域を動かすことのできるキーになる人  
地域をまとめている人から地域での気になる人の情報収集

ポピュレーションの場は、ハイリスクケースを把握することができる貴重な場

ポピュレーションとハイリスクは一体的に事業を実施する必要がある

# 今後への取組

KDBデータは地域の現状を把握できる貴重な材料  
通いの場は地域の人達の声を生で聞くことができる  
貴重な場

ハイリスク訪問は今まで会うことのできなかった人との  
貴重な出会い

後期高齢者だけでなく、地域づくりのために地域の人達や  
医療・介護・民生児童委員・社会福祉協議会などと  
つながりを深めていきたい

ご静聴ありがとうございました



紙風船上げ 2月10日開催